

双葉西小だより

令和4年 3月16日 文責 学校長 平塚 克人



47名の巣立ち 3. 18



☆☆☆ 虹色の明日へ続く... ☆☆☆

3月18日（金）に47名の子供たちが双葉西小学校の卒業生として巣立っていきます。卒業生や保護者の皆様に心からお祝いを申し上げますとともに、直接・間接的に指導・支援に関わってくださった多くの方々にも厚くお礼を申し上げます。

卒業式もコロナ禍になっての一昨年度、昨年度共に感染症拡大防止のためにいくつもの制限がありました。今年度も在校生参加の見合わせ、ご来賓は1名のみに加えまして、参列者全員による校歌斉唱と卒業生の合唱はなしと、これまでの卒業式よりも極めて厳しい制限の中での実施となります。

そのような中ではありますが、卒業は新たなスタートです。卒業生が、自分の夢に向かって、一步一步、努力を重ね、柔軟に壁を乗り越え、夢を実現していくことを心から期待しています。残された在校生にとっても、25日（金）が1年を締めくくる大切な修了式になります。この1年間を振り返り、自分の成長に自信を持つとともに、次の学年に向けてしっかりと目標を持たせたいと考えています。桜の蕾もほころび始めています。子供たちには、今年度の児童会のキーワード“虹”のように明日へ、次の学年へ、輝かしい未来へ、元気にたくましく新しいスタートを切ってほしいと思います。

卒業生の皆さんへ ～3/14（月）卒業式予行より～

冬の寒さの残る校庭で始まった卒業式の練習ですが、今日早くも予行を迎えました。感染症拡大防止のため、卒業式の内容を簡略化してありますので、通常の年よりも練習日数が大変少なくなっています。

しかし、6年生の皆さんにとって、一生に一度しかない晴れの小学校生活の最後を飾る大きな節目です。いくら感染症拡大防止とは言え、皆さんのせっかくの晴れ舞台、卒業式を味気ないもので終わらせるわけにはいきません。感染症に負けるわけにはいかないのです。

先日行われた「6年生を送る会」でも、全校で体育館に集まることはできませんとか、近距離や密になる活動はダメですとか、歌は歌えません等のいくつもの制限があった中で、あれだけ全校児童が楽しめたり、下級生が6年生に対して憧れているとか、優しくったとか、すごいとか、カッコいいとか、6年生みたいになりたいとか、そのような在校生の気持ちが様々な形で表現されたりしていたことは、いかに皆さん6年生が双葉西小学校のために頑張ってきたかが分かります。

先週の卒業式練習では、歌い慣れた校歌の伴奏だけがスピーカーから流れてくるのをじっと聞いているだけで、歌いたくても歌えない無念さがあったことでしょうか。声をそろえて皆で合唱もしたかったでしょう。呼びかけもマイクを使わずに自分の台詞を力強い声で言いたかったでしょう。しかし、いつもの年の卒業式に決して引けをとらない卒業式になりそうな予感がしました。また、皆さんの練習する姿を見ていて胸に熱いものがこみ上げてくるものがありました。

皆さんは、今後も中学や高校の卒業式、成人式、結婚式など人生の節目節目に様々な儀式を経験していくことでしょう。18日の小学校卒業式が一生の良き思い出の1ページとなるよう、今日の予行も程よい緊張感を持ちながらも、卒業式の一連の流れをしっかりと自分の中で消化していきましょう。先生たちも心の底から皆さんを応援しています。

学校を支えてくださった皆さん 1年間ありがとうございました

3学期は、PTA 常任委員会、新旧地区委員会議、学校運営協議会、学校支援地域会議等、予定していました会が軒並み中止・紙面提案になってしまいました。そのため、今年度本校に御力添えいただきました学校応援団の皆様をはじめとして、ご協力いただきました方々全てに直接感謝の意を表すことができず大変心苦しく思っています。学校を代表いたしまして、心より厚く御礼申し上げます。来年度も充実した教育活動が展開できますように、今後ともご協力を御願います。

令和3年度 学校評価について

昨年11月に実施しました児童、保護者、そして教職員によります学校評価アンケートがまとまりました。詳細は本校HPの「学校評価」にありますので、ぜひ

ご覧になってください。この紙面では、学校関係者評価書の一部を紹介いたします。

学校関係者評価委員会はコロナ禍のため実施できませんでしたが、委員の皆様からは紙面でのご意見提出をいただきました。この場を借りまして、深く感謝しますと共に、お礼を申し上げます。ありがとうございました。学校評価結果と学校関係者評価委員の皆様のご意見を参考にしまして、令和4年度も学校・家庭・地域の三者が手を取り合いながら子供たちの健やかな成長に向き合っていきましょう。

〈学校関係者評価書より〉

- ・教育活動の発信について、学校と保護者の結果に50%もの乖離がある。高学年になるにつれて、おたよりに目を通すのも減ってくるであろうし、児童が見せない（親も確認しない）ということも考えられる。対面で説明するのと文書を渡すだけでは理解度に差が出てくると思う。
- ・学校からの情報発信は、保護者にはホームページ、学校だより、学年だより、ふたすけ通信、安心メールがある。地域にもホームページや回覧での学校だよりで発信をしている。行事が公開できない中でも、ビデオ撮影されたクリップの配信等の工夫を行っている。学校情報を得る上では保護者の関わり方が重要だと思う。
- ・スマホ、ゲームについては家庭の問題と言える。買い与えた時に、時間やルールの徹底、使用状況の把握、フィルタリングや課金、オンライン等による危険等、あらかじめ予想されることへの親の意識に差があるのではないかな。
- ・スマホやゲームは家庭でのルール作りが大事だが、家庭ではおさめきらず、昼夜逆転して、結果不登校にまでなってしまうのは残念に思う。
- ・スマホやゲームについては難しい問題。祖父・祖母の時代は「遊び」、父母の時代は「マンガ」「テレビ」が悪役だった。子どもも自分のペースで読書、勉強をするし、そうではない大半の時間、今では「ゲーム」「スマホ」と時代と共に形を変えているだけだと思う。
- ・「読書」については、それにかかる時間も気になるが、本を好きになってもらうこと、たくさんのことを教えてもらうことができることに気づかせることが大事だと思う。
- ・保護者や地域配付の学校だよりの中に、ホームページへのアクセスを促すと、更に多くの方に活動を目にしていだける。
- ・ビデオ配信について安心メールで伝えと、視聴も増えるのではないかな。
- ・スマホの恐ろしさは、無責任な間違った情報や匿名による行きすぎた発信だと思う。テレビやマンガ、ゲームよりも毒性は強いので、その部分への対応も考えていく必要がある。
- ・図書室で借りる本を3冊から1冊に減らし、友達に紹介する機会を増やしたり、家庭においてはマンガやコミックも読書として許容したり、スマホやタブレットでの電子書籍も許容したりすることが必要かと思う。
- ・読書を強要すると嫌いになってしまうので、少しの時間で読み続けることが大切だと思う。
- ・「読書」については物語のストーリーに関心を持たせ、自ら進んで「本を読みたい」と思わせるきっかけ作りが大事ではないかと思う。
- ・空想力や創造力が逞しくなる本の選定と紹介もあると良いかもしれない。

来年度の学級編成（3.16現在での予定）

※学級数右横の赤字は今年度からの増数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計
児童数	53	42	46	43	41	41	17	283
学級数	3 +1	2	2	2	2	2	4 +1	17 +2

学級数は、その学校の規模や教職員数等の基になる、とても重要な数です。これは、学年別の総児童数と1学級児童数上限の基準によって決まります。本県では、本県独自施策「はぐくみプラン」の基準により、法律による国の基準よりも少ない基準で学級編成できる仕組み（少人数学級）が実現しています。1・2年生の25人学級も本県独自施策（小1は令和3年度から、小2は令和4年度から）です。本校では1年生が基準の51名以上になりますので、25人学級が適用され、3学級になります。また、みどり学級が特別支援学級1学級上限の8人を越えて9人になりますので2学級になります。したがって、現在の2階生活科室を1年生教室に、2階東の教材室に2学級目のみどり学級教室を設置する予定です。